
第6章 文化財の保存・活用に関する課題・方針

1 文化財の保存・活用に関する課題

第5章で設定した将来像の実現に向け、本市の文化財をとりまく課題を、基本方針ごとに整理します。

（１）なわての我を知る

本市は、これまで様々な文化財の調査を行い、それらの調査成果にもとづき、四條畷市史を刊行してきました。ただし、最初の市史が刊行されてから 50 年以上経過し、新たな調査も行われたことで、市史に掲載されていない文化財の存在も明らかになりました。そこで、新たな四條畷市史、文化財報告書を刊行する必要があります。また、把握調査、詳細調査が十分に行われていない文化財もあり、引き続き調査を進める必要があります。発掘調査では、開発に伴う発掘調査の実施や、約 240 件残っている過年度の発掘調査報告書の刊行などが求められています。

（２）なわての輪を守る

本市には、貴重な文化財が多数あり、その一部は指定を受けています。しかし、田原城跡など、指定を受けていない文化財も多く存在します。文化財を守り、伝えるためには、適切に文化財を指定・登録し、確実に保存、管理し、未来へつなげることが重要です。

文化財の保存、管理には、適切に管理、運営されている収蔵施設が必要です。現在、四條畷市立歴史民俗資料館は遺物保管場所が不足しており、さらには、土蔵の耐震対策が求められています。また、災害の際には、文化財の被災状況を把握し、迅速な対応が求められるため、災害時の対応を検討する必要があります。

（３）なわての話を活かす

本市には魅力ある文化財が多く存在しますが、情報発信が不足しており、十分に活用できていません。また、市内に点在する遺跡を周遊するルートもさらなる充実が必要です。今後は、文化財を活用した PR の取り組みや、ICT、SNS の活用による文化財の情報発信が求められます。

（４）なわての環を整える

本市は、これまで千光寺跡移築広場や、なわて水みらいセンターなど文化財施設の整備を行ってきました。しかし、施設そのものや説明板の老朽化が進み、施設の再整備や看板の更新などが求められています。また、正法寺跡や飯盛城跡は、整備が完了しておらず、適切に見学できる環境が十分整っていません。

本市域の各地に郷土史カルタ句碑を設置していますが、荒廃が進んでいるため、カルタ句碑の更新と適切な管理が課題となっています。

（５）なわての和を育む

本市の文化財を守り、伝えるためには、市と市民が協力する体制が不可欠です。本市の文化財の数に対し、学芸員をはじめとした文化財専門職員が十分ではありません。文化財を適切に保存、管理、活用するためには、市民が市をサポートする制度と、文化財専門職員の拡充・育成が必要です。また、文化財保護の資金確保のため、ふるさと納税の活用など、資金調達の仕組みづくりが必要です。

２ 文化財の保存・活用に関する方針

第１節で述べた課題を解決するための方針を設定し、基本方針ごとに整理します。

（１）なわての我を知る

本市の文化財の調査・研究を進めるためには、把握調査、詳細調査の継続や、調査報告書の刊行が必要不可欠です。そのために、今後も把握調査、詳細調査を続けるとともに、調査報告書の刊行、過年度の発掘調査報告書の刊行を実施します。

（２）なわての輪を守る

本市の文化財を適切に保存するため、文化財の価値づけを行い、文化財指定を継続して実施します。また文化財の適切な環境での保存に加え、文化財収蔵施設の耐震対応、環境整備を行います。災害の際に、適切な対応ができるよう、文化財所有者に「災害等の対応表（表 8-1）」を周知し、継続して文化財防火デーに合わせた防災訓練を行います。

（３）なわての話を活かす

本市の文化財を活用し、指定文化財のパンフレットの作成や、文化財の公開を継続して行います。また、小学校や中学校などの学校と連携し、文化財を活用した教育活動を行います。さらには、PR グッズの開発や、ICT の活用、SNS 投稿及び動画作成を行い、広く文化財の価値を周知することをめざします。

（４）なわての環を整える

千光寺跡移築広場やなわて水みらいセンターの部屋北遺跡の説明板など、文化財施設の更新、再整備を実施します。整備が完了していない飯盛城跡や正法寺跡は、今後整備を進め、安全に見学できる環境を整えます。また、郷土史カルタ句碑を更新し、適切な管理を行います。

（５）なわての和を育む

本市の文化財を守り、伝えるため、市民が市をサポートする「歴史サポーター」の取組みを継続するとともに、文化財専門職員を増員し、配置・育成します。資金確保のため、ふるさと納税に歴史・文化財枠を創設し、新たな財源を確保します。

表 6-1 課題・方針一覧表

基本方針	No.	課題	方針
なわての 我を知る	1	四條畷市史 1 巻刊行から 50 年以上経過し、本市の歴史の調査・研究を行う基礎資料として活用するため、その後の情報を追加して記述する必要がある	新たな四條畷市史を編さんする
	2	四條畷市史に盛り込まれていない古文書や民俗文化財、美術工芸品が存在しており、資料の価値や所在を周知するため、報告書を刊行する必要がある	四條畷市史資料集をはじめとした市の文化財に関する各種文化財報告書を刊行する
	3	歴史資料、民俗文化財、遺跡など、把握調査が十分に及んでいない文化財が存在しており、把握調査が必要である	歴史資料、民俗文化財、遺跡などの把握調査を継続する
	4	古文書、民俗文化財、建造物など、詳細調査が十分に及んでいない文化財を保存・活用するための情報が不足しており、詳細調査が必要である	古文書、民俗文化財、建造物などの詳細調査を継続する
	5	本市の祭りや行事に関する詳細調査が十分でないため、文化財としての価値を明らかにする必要がある	本市の祭りや行事に関する詳細調査を継続し、価値を明らかにする
	6	公共および民間開発に伴い必要な箇所の埋蔵文化財発掘調査が必要である	公共および民間開発に伴い必要な箇所の埋蔵文化財発掘調査を実施する
	7	発掘調査の実施後は整理作業と報告書刊行が必要である	発掘調査の実施後は整理作業を行い、報告書を刊行する

基本方針	No.	課題	方針
なわての 我を知る	8	個人や零細事業者は発掘調査整理費用、報告書刊行費用の負担が困難で、整理、報告書刊行できる仕組みが必要である	個人や零細事業者が原因となる発掘調査の整理、発掘調査報告書刊行の仕組みを継続する
	9	報告書の刊行が完了していない過年度発掘調査が約 240 件存在し、現状ペースでは報告完了まで約 80 年必要なため、早急に整理して報告書を刊行する必要がある	過年度発掘調査の報告書を、今後 30 年を目標に全て刊行する
	10	史跡飯盛城跡を未来へ継承するため、石垣や遺構の研究・整備のための詳細調査を実施する必要がある	史跡飯盛城跡の石垣および遺構の詳細調査を実施する
	11	田原城跡の価値を明らかにする総合調査を行い、報告書を刊行する必要がある	田原城跡総合調査を実施して価値を明らかにし、総合調査報告書を刊行する
なわての 輪を守る	12	指定できていない文化財があり、必要な文化財を指定・登録する必要がある	指定文化財指定および登録文化財登録を適宜すすめる
	13	田原城跡を市史跡に指定し適切に保存管理する必要がある	田原城跡を市史跡に指定し、適切に保存管理する
	14	既往発掘調査の測量原図、撮影写真が劣化しており、適切に保存する必要がある	原図・原版での保管に加え、デジタルデータでの保存を行う
	15	広報担当課で収集した写真が未整理で保管され劣化が進行しているため、整理と保存が必要である	原版での保管に加え、デジタルデータでの整理および保存を行う
	16	過去の試掘・確認調査と発掘調査の記録を整理し、既往調査箇所と内容を確認できる仕組みが必要である	過去の試掘・確認調査と発掘調査の記録を整理し、既往調査箇所と内容を確認できる仕組みを市内 WEBGIS 上に構築する
	17	市内民俗文化財の継承者の減少や、道具の劣化などが進んでおり、保存と道具の継承が必要である	民俗文化財の保存継承と記録作成および道具の修理を実施する
	18	市内の古文書が劣化や散逸のおそれがあり、適切に保存管理する必要がある	古文書を適切に保存管理する
	19	地震時の来館者や収蔵資料の安全確保のため、歴史民俗資料館土蔵の耐震対策及び本館の長寿命化を行う必要がある	歴史民俗資料館土蔵の耐震対策及び本館の長寿命化を行う
	20	歴史民俗資料館の文化財保管場所が不足しており、保管場所を確保する必要がある	文化財保管場所を歴史民俗資料館周辺をはじめとした市内に確保する
	21	史跡指定地の公有化に向けて検討する必要がある	将来的な史跡指定地の公有化に向けた検討を行う
なわての 話を活かす	22	災害時の被災状況確認や初動対応のため、文化財の災害対応を周知する必要がある	災害等の対応表（表 8-1）を所有者に周知し、文化財防火デーに合わせて防災訓練を継続する
	23	登録有形文化財（建造物）の公開活用の機会が限られており、十分な公開活用を行う必要がある	登録有形文化財（建造物）の公開活用を実施する
	24	四條畷市内の歴史や文化財について市民に公開する機会を継続して設ける必要がある	歴史民俗資料館での展示公開を継続する
	25	歴史民俗資料館への来館ルートをわかりやすくする必要がある	歴史民俗資料館への来館ルートを再周知する
	26	市内の文化財や遺跡に関する情報が個別提供されているため、複数の文化財を関連付けて周遊できるルートが必要である	市内の文化財や遺跡を周遊できるルートを検討する
	27	郷土史カルタ句碑の設置場所に関する情報を十分に周知できていないため、所在地を再周知する必要がある	郷土史カルタ句碑の所在地を再周知する
	28	周辺自治体と広域的に連携した文化財活用の取り組みが必要である	周辺自治体と広域的に連携した文化財活用の取り組みを進める

基本方針	No.	課題	方針
なわての話を活かす	29	小中学生へ向け市の歴史を発信する機会が必要である	小中学校へ市の歴史を発信する機会を増やす
	30	高校生、大学生へ向け市の歴史を発信し、文化財保存および活用に市と取り組む機会が必要である	高校・大学へ市の歴史を発信し、文化財保存および活用に市と取り組む機会を増やす
	31	市内の指定文化財の価値を十分に周知するため、パンフレットを作成する必要がある	市内の指定文化財のパンフレットを作成する
	32	史跡飯盛城跡の価値や魅力に関する情報が市内外へ十分に届いておらず、市内外へ発信する必要がある	史跡飯盛城跡を市内外へ発信する機会を増やす
	33	田原城跡の文化財としての価値を市民に十分発信する必要がある	田原城跡の価値について市民向けに発信する
	34	文化財を活用したPRの取り組みが必要である	文化財を活用したPRグッズの開発と配布もしくは販売を検討する
	35	文化財を発信するICTの活用や、SNS、動画投稿が不足しており、投稿の充実が必要である	文化財の発信にICTを活用するとともに、SNS投稿実施及び動画を作成し公開する
なわての環を整える	36	千光寺跡移築広場が雑草の繁茂や説明板の老朽化により適切に見学できないことがあり、適切な管理および整備する必要がある	千光寺跡移築広場を適切に管理し、再整備を実施する
	37	正法寺跡が整備未了で適切に見学できる環境が整っておらず、適切な管理および整備の必要がある	正法寺跡の整備を実施する
	38	なわて水みらいセンターに整備した葎屋北遺跡説明板が老朽化しており、更新する必要がある	葎屋北遺跡説明板を更新する
	39	各街道の案内板が老朽化しており、再整備による街道の存在の再周知が必要である	街道の案内板再整備を実施し、可能な街道の現地明示を検討する
	40	郷土史カルタ句碑が荒廃しており、更新と適切な管理の必要がある	郷土史カルタ句碑を更新し、適切に管理する
	41	史跡飯盛城跡が未整備の状況であり、見学者の安全確保および史跡の価値理解に必要な公開環境を整備する必要がある	史跡飯盛城跡の整備を実施する
	42	飯盛城跡への登山道の保守を行う必要がある	飯盛山登山道の適切な管理を行う
なわての和を育む	43	講座やイベントが一過性の傾向にあり、市民が文化財保存および活用をサポートできる取り組みが必要である	市民が文化財保存および活用をサポートする取り組みを実施する
	44	ふるさと納税に歴史・文化財関係の使途が設けられておらず、市内外からの寄附意向を、具体的な支援につなげにくいいため、仕組みの検討が必要である	ふるさと納税に歴史・文化財枠を創設する
	45	歴史民俗資料館への学芸員配置が不足しており、収蔵資料の管理、調査研究、展示、教育普及等を十分に行うため、学芸員を配置する必要がある	歴史民俗資料館に館長に加えて学芸員の配置を検討する
	46	今後30年つづく文化財調査報告業務の増大量に比して文化財専門職員が不足しており、専門職員の確保・育成が必要である	今後30年間、文化財調査報告業務を遂行できる文化財専門職員を確保・育成する
	47	文化財の保存および活用に必要な体制を十分整える必要がある	文化財の保存および活用に必要な体制を十分整える

1) 開催の概要

本計画の作成のため、本市の文化財の未来に向けて、魅力の引き出し方を考えることを目的としたワークショップを全3回実施しました。開催の詳細は巻末の参考資料のとおりです。対象は本市在住・在勤・在学者で、募集の結果30代～60代の男女6人が参加しました。

事務局では、事前に2本の方向性を設定し参加者に共有しました。その方向性は、①「なわて」らしさ、②小学生や中学生に継承してほしいもの、です。

第1回と第2回のフィールドワークでは、参加者の気づきを尊重するため、各所での詳細な説明を控え、自発的な質問に対応しました。参加者は、各人の気づきを付箋に自由記述することで、方向性の検討材料を作成しました。各人の気づきをスタートとして、第3回は、四條畷市内の文化財の魅力を引き出す具体案をディスカッションしました。

2) 参加者からの提案

参加者からの提案の概要は下記の通りです。

1. こども主体の体験づくり

- ・大人が与えるのではなく、こども自身が楽しいと思う遊びや主体性を尊重する。
- ・スマホの活用なども交え、こどもが歴史や地域に親しむきっかけを作ること、親世代へも関心を広げる。

2. 住民が一体となった地域づくり

- ・「遊び」や地域を楽しむことを通して、古くからの住民も新しく引っ越してきた人も一緒にあって四條畷の魅力を再発見する。
- ・歴史に詳しくない・好きではない人にも参加してもらえる工夫をする。
(収益性については割り切りが必要)

3. 今後の進め方

- ・豊富な素材から焦点を絞るため、まずはテスト的に実施する。
- ・「こどもの意見を拾い上げる」「広くフィードバックを得る」という2つの方向性を軸に、協力者を得ながら進めていく。



図 ワークショップのようす